

平成 29 年度山野学苑事業報告

はじめに

山野学苑は、初代校長山野愛子・山野治一総長によって昭和 9 年に山野美容講習所として創立されました。爾来、美道五大原則の精神に基づき、高い資質能力を有し世界で活躍できる人材の育成を追及して今日に至っています。

我が国をはじめ、世界を取り巻く情勢が、政治・経済・外交・環境・平和等あらゆる分野で困難に直面する中、我が国では、少子高齢化、東京一極集中化等が一層顕在化し、地方が直面する構造的な課題も深刻となっています。

こうした中、国民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を営むことができる地域社会の活性化を目指すには、高齢者の活躍が必要です。

本学苑はこの理念の下、日本で初めて「美容福祉」理論を提唱し、さらに、超高齢社会の諸問題を学際的に研究する「ジェロントロジー」教育を普及・教授し、新たに「美齢学」構築のための美齢学研究センターを設立して、社会のニーズに対応した教育体制の整備を目指しています。

《短期大学》

【全 般】

平成 29 年度は、日本私立学校振興・共済事業団による私立大学等経常費補助金に係る対象事業の実施状況等について実地調査を受け、概ね良好の評価を受けた。補助金に関しては、28 年度に引き続き改革総合支援事業に採択され、短期大学の地域貢献に基づく補助金を獲得した。

教育面では、教育体系をより明確に充実させるため、教育目標、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの見直しと、新たな入試選抜方法の導入と合わせて入学から卒業までの学習成果の獲得をより明確にするためのルーブリック（学習成果評価基準）の見直しを行った。

美容総合学科では、各専攻の特色を際立たせるプログラムを導入する他、美容デザイン専攻の美容師養成カリキュラム改正への対応を含め、教育内容の充実と高等教育機関としての質の保証に向けたカリキュラム改正を行った。

また、美容総合学科の入学定員の適正化を図るため、文部科学省に平成 30 年度からの入学定員増の認可をいただき、平成 30 年度より入学定員を 245 名として学生募集活動を行った。

1 学科及び各専攻等の内容

(1) 美容総合学科

美容総合学科は、美道五大原則（髪・顔・装い・精神美・健康美）に基づく美容教育と教養教育により、『美しく生きる力』を形成することを教育目標としている。

『美しく生きる力』とは、課題を発見し、解決する能力すなわち自ら考え、行動し、振り返ることのできる力であり、あらゆる他者にホスピタリティ及びコミュニケーション力を発揮できる、自身のみならず他者も含めた豊かな人生を追求できる力を有する人材の育成を目指している。

(2) 美容デザイン専攻

美容師の国家資格が取得できる専攻である。幅広い教養と、美容知識・技術の習得を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、他者のニーズを踏まえて「美」を表現するデザイン力、加えて国際性を兼ね備えた美容産業を中心とする様々な分野で活躍できる人材の育成を主眼に教授を行った。

また、山野学苑が培ってきた美容福祉の継承を担う旧ホームヘルパー2級に相当する「介護職員初任者研修」も継続して実施した。

この他、新たな入学希望者獲得のため、海外での活躍を目指す学生に向けた、プログラムの構築に取り組んだ。

(3) エステティック専攻

幅広い教養と、美容知識・技術の習得を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、人のからだの「美」について、医学、生理学、栄養学、心理学など総合的な視点でとらえることができる力、加えて国際性を兼ね備えた、エステティック産業を中心とする多様な分野で活躍できる人材の育成を目指した。

この他、体の内側から、キレイになるために必要な食や栄養、健康に関する知識と技術を学ぶ、プログラム構築にも取り組んだ。

(4) 国際美容コミュニケーション専攻

グローバルな人材育成が叫ばれる中、必須とも言える英語コミュニケーション力を身につけ、幅広い教養と美容知識・技術の習得を通して、課題を発見し、解決する能力を備え、語学力や自国文化を含めた異文化理解などの国際性を兼ね備えた、サービス産業を中心とする様々な分野で活躍できる人材の育成を目指した。特に、英語でのコミュニケーション力を活発化させるため、次年度からの英語教育の学年配置を見直し、新たな教育方法について導入検討を行った。

この他、留学生も継続して積極的に受け入れた。2020年の東京オリンピックなどを契機に、国のインバウンド政策等も加速しており、国際コミュニケーション分野の人気も高まっている。これらの状況を踏まえ、平成30年度から、国際美容コミュニケーション専攻の入学定員を30人から45人に増員して学生募集を行った。

(5) 専攻科芸術専攻

専攻科は、美容技術のスキルアップと芸術としての美容の研究を目指し、授業では、絵画、彫刻、デザイン、写真等を通して表現力を高めながら、将来の仕事に生かせる実践的な美容技術や美容に関わる深い知識を身につけ、修了と同時に大学卒

業と同等の学位「学士（芸術学）」取得を目指した。

芸術系の授業内容やシャンプー製作など特徴的な専攻科を学内のみならず、学外へも積極的にアピールすることが益々求められている。美容技術のさらなる研鑽に留まらない特徴を広報した。

また、新たな入学希望者獲得のため、海外での活躍を目指す学生に向け、海外長期インターンシップ等を含めたプログラムの構築にも取り組んだ。

(6) 日本語別科

日本語別科が八王子に移転し、2年が経過して学生募集も地域性が定着してきた。本科生と同じキャンパスで学ぶことで、平成30年度に16名の学生が短大本科への進学実績があった。

2 卒業後の進路

(1) 美容デザイン専攻

区 分	人 員	占有率 (%)
美容室	81	75.7
アイラッシュ	5	4.7
ネイル	3	2.8
化粧品	11	10.3
ブライダル	5	4.7
進学	1	0.8
留学	2	1.7
帰国	3	2.5
その他	8	7.5
計	119	

(2) エステティック専攻

区 分	人 員	占有率 (%)
エステ	27	84.4
化粧品	5	15.6
進学	1	3.0
計	33	

(3) 国際美容コミュニケーション専攻

区 分	人 員	占有率 (%)
美容室	2	6.3
エステ	3	9.4
ネイル	4	12.5
化粧品	14	43.8
アパレル	1	3.1
留学	1	3.1
その他	7	21.9
計	32	

(4) その他

留学生の日本国内美容業界への就職は本科生1名、専攻科生1名の計2名となった。

3 キャリアサポート

(1) キャリア支援センター

キャリア支援センターは、ゼミ担当教員と密接な連携を図りながら、就職先やインターンシップ先の開拓等、提携先を増やし学生への情報提供の充実に努めた。

また、就職の心構えなどの特別講座の実施（講演）、企業説明会の実施（サロン、ブライダル、写真スタジオ、一般企業）、個別相談、面接指導、書類指導を行った。

さらに、Uターン・Iターン就職協定を結んでいる長野県、栃木県と連携し、学生へ求人情報の提供を行った。

(2) ゼミナール

キャリア支援や人間教育に柱を置いた「ゼミナール」では、ホスピタリティ能力、コミュニケーション力等の社会人基礎力の育成を柱とし、少人数制の人間教育、キャリア教育をさらに充実させるべく取り組んだ。

(3) インターンシップ

ヘアサロン、エステサロン、ネイルサロン、一般企業（ブライダル企業、化粧品企業）等へ1年次の夏と2年への進級直前の3月に2週間から1ヶ月程度のインターンシップに参加し、学生が働くことの意義や職場の状況について事前体感するとともに社会人としての意識付けの強化を図った。

29年度の参加学生は60社156人（28年度は56社148人）であった。研修内容として、国内では、スパレセプション、化粧品会社、ネイルサロン、美容室、エステサロン、結婚式場、写真スタジオ、メイクスタジオ、衣装会社、航空会社（ラウンジ）、アパレル販売、海外では、ブライダル、美容室で実施した。

4 課外活動

必修科目として包括協定を締結している八王子市提供のボランティア活動に学生105名（延人員）が参加した。

教員としては、八王子市主催の「いちよう塾」開講として公開講座と提供講座で合計11講座を担当して、市民264人の受講生が参加した。

そのほか地域密着として八王子まつり、民生委員会、全国都市緑化はちおうじフェア八王子市市政100周年記念事業、学生天国、などへ参加した。

また、グローバルな取り組みとしては、アメリカンスクールインジャパン、Tokyo International Players、西町インターナショナルスクールなどでのヘアメイク、着付け、お茶体験などを実施した。

海外からの短期美容技術研修なども積極的に受け入れている。

5 学生募集

30年度入学者獲得のため、オープンキャンパスの開催、学校見学会、高校訪問、校内・会場進学ガイダンス及びWebリスティング広告、SNSの活用等を積極的に実施した。30年度の入学者は次のとおりである。

(1) 本科

専攻	入学者	定員	充足率
美容デザイン	108 (6)	160	67.5
エステティック	42 (4)	40	105.0
国際美容コミュニケーション	120 (97)	45	266.7
計	270 (107)	245	110.2

注：（）内数字は、留学生を示し、内数を表す。

(2) 専攻科芸術専攻

入学者	定員	充足率
2	40	5.0

(3) 日本語別科

ア 入学者

区分	入学者	定員	充足率 (%)
10月生	43	60	161.7
4月生	54		
計	97		

イ 国別

国名	入学者		計
	10月生	4月生	
中国	9	17	26
ネパール	20	17	37
ベトナム	14	13	27
韓国		1	1
カンボジア		2	2
ウズベキスタン	4		4
計	47	50	97

6 美齡学の構築

一生を美しく生きることにより美を通して様々なアプローチで研究する学問である美齡学について、総長のリーダーシップの下、法人本部とともに構築に着手した。

7 産学官の連携について

26年度、地元の八王子市と包括協定を、長野県・栃木県とU・Iターン就職協定を締結した。本年度は山梨県U・Iターン就職協定を締結した。それを発展させるべく、八王子市とは生涯学習、ボランティアを進め、長野・栃木両県からの企業情報、就職情報の提供を行った。この他、地元企業である製菓会社の「イタリアントマト」や「島田電機製作所」等との産学連携事業を推進した。

8 外部資金の獲得

国の助成事業を見据え、前述しているこれらの活動を結び付けることで、28年度に引き続き、本年度も、改革総合支援事業に採択され補助金を獲得することができた。

《美容専門学校》

山野美容専門学校は、昭和9年に山野美容講習所として創設されました。以来80有余年以上にわたり初代校長山野愛子が提唱した美道を基本理念として、美容界のため豊かな発想と美的感覚を備えた美容師の養成に努めてきました。近年、美に対する個人の意識が多様化し、また、社会の変革に伴って美容師に対する要望も高度化してきました。特に、これからの高齢社会においては、美容福祉の重要性を自覚し、福祉についても基本的な知識・技術を学び、人のため癒しの気持ちを施すことができる思いやりと愛の心を備えた美容師を養成することが望まれます。このため、アメリカの南カリフォルニア大学と提携して、日本では他校に先駆けて学際的分野であるジェロントロジー教育をオンラインシステム「スカイキャンパス」として導入しています。

このような基本的な考え方を具現化した主要な取り組みは次のとおりである。

1 ミッションステートメントの確立

教育目標 Mission statement

～山野美容専門学校は「髪」「顔」「装い」「精神美」「健康美」の『美道五大原則』を基に、美容の理論と実践をとおして教育の向上を目指し、常に変わりゆく多様な文化のなか学生を美容界のリーダーに育てるとともに、生涯の学びへと導くことを目標とする。～

山野美容専門学校には美道五大原則を基礎とするミッションステートメントが位置づけられている。平成 29 年度は、これを教職員の業務の指針とし、一人一人が常に振り返り自らの向上に役立てる体制を確立している。

2 教員の教育力の向上

* 教員評価制度の制定による他校との差別化等

- ・ 基本理念である「美道」を実践できる教員の育成を促進するため、理事長・総括指示のもと教員評価制度を制定し、教員能力の客観的な評価を実施した。

評価基準については「美道五大原則」を基本に教員全員の意見を集約し、公平性と透明性を保っている。

- ・ また、29 年度は教員のマナーや技術力、指導力など、向上すべきスキルごとに研修会を開催し、年間を通じて教員のスキルアップを目指した。

3 ICT教育

専門課程の生徒全員に iPad 導入が完了し、オンライン教育システム「スカイキャンパス」のさらなる浸透と充実を図った。

* 国家試験対策は前年度以上にスカイキャンパスを活用した。小テストや模擬試験は通年かつ高頻度で行われ、結果を即時生徒にフィードバックし弱点对策に効果を上げ、合格率の向上が達成できた。

直近の 3 年間の新卒者合格率の推移は、92.4%、89.7%、そして今年 3 月が 95.1% である。

* 就職活動やコンテスト等の自己実現に活かせるコンテンツも拡充した。

4 職業実践専門課程

平成 26 年度から文部科学省での認定制度が始まり、本校は翌 27 年度から認定を受けている。実務に関する知識、技術、技能について組織的な教育を行うものと規定され、企業等との連携体制を確保して教学に生かしている。

教育課程編成委員会では実習に生かせる技術の修得や指導力の向上を目的とした研修体制等について、学校関係者評価委員会では、学校の取り組みについてそれぞれ外部委員の意見をいただき、教育の充実を図った。

5 委員会制度の充実

26 年度以降、委員会制度による教職員の職務の効率化・共有化に努めている。

6 カリキュラム

国家試験の全員合格を目標としたカリキュラムと、プロの現場で求められる実践力育成のためのカリキュラムの両立を目指した。

① カリキュラム You (専門課程)

選択カリキュラムを引き続き採用し、学生アンケート結果をベースに常に改善

に取り組んだ。

② カリキュラムLIVE（高等課程）

高等課独自の現役サロン美容師によるLIVE授業を継続して実施した。

③ 通信課程

受講生は主にサロン勤務者を含む社会人であるため、面接授業の時間帯を昼または夜間で選択できるシステムを引き続き採用している。特に通信・夜間では時間帯の便利さから人気のあるコースとなっている。手厚い国家試験対策の特別授業を実施した。

7 教育環境の改善

① 生徒主体の活動推進

学校の教育環境改善や生徒間・教員-生徒間コミュニケーションの円滑化、学校生活の向上、ひいては生徒の行動の改善を目的として、生徒主体の「学友会」を組織した。

生徒の意見を集約し、改善へ向けて企画立案・実行し、行事・ボランティア等についても生徒が主体となって運営を進めている。

② キャリア支援

就職指導については、伝統と21万人の卒業生を世界の美容界へ送り込んだ実績によって、前年度を上回る1,200社12,000人の求人数があった。また、合同サロン説明会218社、個別サロン説明会51社を開催すると共にカリキュラムに沿った新たな企業等の開拓にも継続して取り組んだ。

③ ハラスメントの防止対策と心のケア

生徒が個人として尊重され、信頼をもとに教学に専念できる環境を作り、これを維持していくことを重要である。当校はスクールカウンセリング・健康相談室・法律相談室を設置しており、守秘義務を遵守しつつ教職員との連携をとっているが、各相談室間の連携をも強化し、生徒支援のさらなる充実に取り組んだ。

④ 精神美教育の充実

コミュニケーション力やチームワーク力、自発的に取り組む力、おもてなしの精神など、接客を生業とする社会人として必要な力や感性を伸ばすための取り組みを行っている。ほぼ毎週開催されるハッピーランチ、恩師や保護者を招待してのサンクスデイなどの取り組みのほか、多くのボランティア活動に生徒が参加した。

ヤングアメリカンズのワークショップにも全生徒が参加し、ホストファミリーのボランティアにも多くの生徒、家族に理解と協力を得た。

8 卒業生(校友会・美道クラブ)とのネットワークの構築

80年以上に及ぶ教育で21万人の卒業生が世界の美容界で活躍している。卒業生への各種サービスの一環として、学校のホームページにイベント等の情報の提供や就職先としての協力依頼等を行っている。また、卒業生相互の絆を更に強

力なものにするためのネットワークの拡充を図り、卒業後も利用可能なスカイキャンパスシステムのさらなる強化に取り組んでいる。

9 保護者との連携

保護者-学校の連携を強化し、保護者同士の互助会としての性格をも持たせた「後援会」の組織化に向けて着手した。

10 経営基盤の強化

少子化・価値観の多様化等による入学者の激減により、概算において難しい状況に直面したが、迅速な対応で基盤的経費を確保するとともに震災特別学費支援制度を継続して、被災された方で学力優秀・品行方正の希望と素養のある生徒に対して、学費の免除を行う等学業に専念できる環境を整えた。

《医療専門学校》

1 事業縮小（閉校）に向けて

平成29年度から山野医療専門学校は「昼間部午前、各学年1クラス、1クラス40名定員」とし、定員減に伴い不使用となる8階の一部施設は山野学苑管理とした。

今後も受験者の増加は望めないと判断し、平成30年度の新規入学者募集は停止した。

平成29年度の学生数は、3年生14名、2年生14名、1年生7名。

平成31年度末の柔道整復専門課程の円滑な閉校に向けて、在校生全員の学校満足度の向上と進級・卒業に関して学生指導、教職員体制を強化した。

予算の更なる緊縮執行に努めたところであるが、予算不足分については同窓会からの支援を受けた。

2 教職員体制

全教職員による定例会議を毎月実施し、教育部門と事務部門との情報の共有化を図り、学校事業遂行の連携強化と円滑な学校運営に努めた。

平成28年度末で3名、29年度末で1名の計4名の専任教員が退職したが補充は行わず、平成30年度からは教職員は副校長、事務局長、教員3名、事務員1名の体制となる。

常勤教員の講義数を最大限度に増やし、非常勤講師の削減に努めた。

3 国家試験

(1) 平成29年度の柔道整復師国家試験の合格率は、新卒者は50.0%と全国平均を28.5ポイント下回り、昨年より18.2ポイント下がった。

(2) 対策

既卒者及び在学生対象の専任教員による国試対策補講を3回/週以上実施をした。

参加者が少なかったため今後国試対策講義の積極的な参加を促すこととした。国試対策を十分に行っていない既卒者に対しては、国試受験を促すことを中止した。

(3) 2年生への対策：

スカイキャンパスを活用して国試対策の早期開始を実施している。

同窓会の支援を受け、国家試験問題集を全員に配付した。

4 キャリア支援

同窓会組織と連携を図りながら実施した。

5 カリキュラム、時間割の改訂

旧カリキュラムが終了し、30年度から2,3年生共、新カリキュラムの実施となる。

6 学生満足度

学校閉鎖を円滑に進めるための最重要対策として、生徒の学校への満足度向上にむけ積極的な取り組みを行った。

生徒の学校への不満はほとんどなくなった。(インターネット上において)

生徒の満足度向上の為、同窓会の支援による交通費補助事業として3万円/年/1名を限度(総予算は20万円以内)に実施した。(昨年から)

7 課外授業、課外活動の充実

各界活躍中の柔道整復師、医師による特別講義を6回/年実施した。

8 各種資格取得のための講座充実

「ジェロントロジー」、「アロマセラピー検定」、「インソール取扱い認定」の他、「ダイエットコンシェルジュ」などの資格取得講座の拡充を図った。

9 「美容柔整」概念の具体化

平成25年度から美容柔整の科目を体系化してカリキュラムを実施している。ジェロントロジー、介護福祉、お茶、お花、着付け、アロマセラピー、ハンドマッサージ、ヨガ、美しい姿勢づくりなどを美容柔整として修得させた。

「柔道整復介護師」及び「柔道整復福祉師」の学苑認定証書は平成27年度から卒業生全員に発行している。

「ジェロントロジー資格認定証書」は2014年度から1年次修了者全員に、「美齢学指導員認定書」は2015年度から卒業生全員に授与している。

《日本語学校》

1 学校の概要

(1) 設置コース

コース名	入学時期	定員
大学進学準備教育1年コース	4月	100名
大学進学準備教育1年半コース	10月	110名
日本語一般1年コース	4月	100名

(2) 教職員数

	専任	増減	非常勤	増減
教員	7人	0	26人	2人
職員	3人	0	1人	0人

(3) 生徒数（（）は昨年）

コース名	生徒数	定員充足率
大学進学準備教育1年コース	33人 (122人)	33% (122%)
大学進学準備教育1年半コース	240人 (254人)	218% (230%)
日本語一般1年コース	99人 (11人)	99% (11%)
計	372人 (387人)	120% (125%)

(4) 国別生徒数（地域別、下段は昨年）

中国	ベトナム	フィリピン	ネパール	その他	計
72%	11%	3%	6%	8%	100%
(77%)	(10%)	(3%)	(7%)	(6%)	

2 事業の概要

- (1) 山野日本語学校はわが国の大学、専門学校へ進学するための日本語教育及び基礎教育を行う、大学進学準備教育1年コース及び大学進学準備教育1年半コースとわが国の大学、専門学校への進学するための日本語教育を行う日本語一般1年コースを設置している。

日本語能力試験(N2以上)の状況(延べ人数、()は昨年)

受験者数	204人 (183人)
認定者数	77人 (71人)
合格率	38% (39%)

進学状況 () カッコ内は昨年

大学院	大学	短期大学	専修学校
17人(10)	35人(29)	5人(5)	91人(86)

※ 主な進学先

大学院：東京大学、東北大学、静岡大学、北陸先端科学技術大学院大学、慶応大学、明治大学、目白大学、桜美林大学、城西国際大学、ハリウッド大学院大学

大 学：東京外国語大学、宇都宮大学、横浜市立大学、慶応大学、中央大学、法政大学、東洋大学、専修大学、国土館大学、拓殖大学、西武文理大学、流通経済大学、麗澤大学、東京情報大学、文京学院大学、中央学院大学、日本経済大学、至誠館大学、東京福祉大学、国際医療福祉大学、桜美林大学

- (1) 日本語教育のみならず、日本の文化や風習、日本人の考え方を理解することも重要視し、山野美容芸術短期大学、山野美容専門学校、山野医療専門学校と積極的に交流を行った。

山野美容専門学校、山野医療専門学校とは合同の学苑祭を行い、直接日本人との共同の作業を行うことで日本人に対する理解を深めた。

- (2) 学生募集においては、進学実績を上げるために増やしていた、中国学生の比率を若干減らし72%とした。しかし、良い学生を選ぶことで引き続き進学実績は向上した。また、日本語能力試験の合格率は、ほぼ前年と同様であるが、既に N2 以上を取得している学生の入学が多くなっていることが原因であると思われる。